

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 1 地産地消や食育を進め、消費者と食・農とのつながりを深めます

○学校給食への県産食材利用促進

【取組】

- ①文部科学省が定める「学校給食週間」（1月24日～30日）に合わせ、農産物PR用ツール（令和4年度は、主な県産農林水産物や農林水産物統計を紹介）を作成
- ②学校給食での県産品利用推進を図るため、県教育委員会や市町と連携して、生産者の出荷情報と学校側の利用希望情報をデータベース化し、県産食材のマッチングを推進
- ③学校給食における県産食材の活用と食育の推進のため、県内の農業関係者や学校給食関係者等を対象とした研修会を開催

【成果】

- ①11,000部作成し、小学1年生を対象に配布
- ②・学校給食での地元食材の利用拡大と県産農林水産物の認知度向上
・食材リストデータベースの活用による他の市町給食での食材利用
- ③研修会の開催：2回 参加者延べ106人

○食育の推進

【取組】

- ・幼少期の子どもたちに農業や県産農林水産物に興味を持ってもらえるよう、オンラインやリアル体験を組み合わせ、県産農林水産物の学習、生産者や産地との交流、県産農林水産物を使った料理体験等を実施

【成果】

- ・食に対する感謝の気持ちや農業の大切さについて理解促進
- ①オドル野菜プロジェクトinEHIME-オドルはだか麦-
はだか麦の種まき、麦踏、はだか麦を使った料理体験
参加者：約40名
 - ②「紅い雫」「あまおとめ」いちごdeスイーツクッキング
参加者：親子60組

○生産者と飲食店とのマッチング支援

【取組】

- ・生産者がブースを設置し、飲食店担当者が各ブースを巡回する展示会方式による「地産地消マッチング商談会」を実施。商談会のフォローアップとして、収穫期の園地を巡る飲食店向けツアーを実施。

【成果】

- ・地産地消マッチング商談会
商談件数：延べ82件、取引件数（予定含む）：延べ21件
- ・産地商談ツアー
取引実績：延べ23件

【関係事業】

- ・地産地消活動促進事業費：11,601千円
- ・地産地消促進マッチング支援事業：6,871千円



はだか麦の種まき



はだか麦の麦踏



はだか麦を使った料理体験



地産地消マッチング商談会

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 2 地域の魅力を活かした多様な交流を促進します

○グリーン・ツーリズムの推進

【取組】

- ①グリーン・ツーリズム体験メニュー登録制度により、県内の農林漁業体験メニューを掘り起こし登録
- ②「えひめGTナビ」ホームページの活用やパンフレットの発行等により情報発信力を強化

(参考)

えひめGTナビ：

<https://ehime-gtnavi.jp>

オーナー制度：

<http://www.pref.ehime.jp/h35100/chokomaru/index.html>

【成果 (R3年度)】

- ①②により、
- ・体験メニュー登録数：323メニュー
 - ・体験者数：112千人
 - ・売上概算：13,876万円

【関係事業】

- ・農業遺産地域躍動推進事業費：14,030千円



ホームページ「えひめグリーン・ツーリズムナビ」

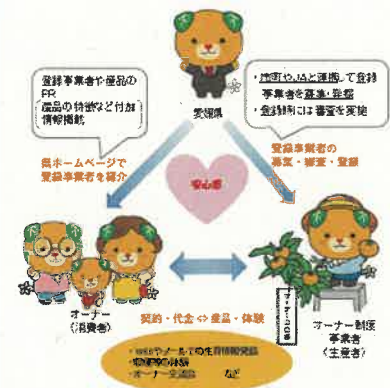
○えひめの農林水産物「ちょこっと体験！まるごと収穫！」オーナー制度の推進

【取組】

- ①オーナー制度登録事業者を市町や関係団体等から広く募集
- ②県HPで登録生産者の取組内容や申込み先などの情報をはじめ、県担当者による生産物の特徴やおすすめポイントなどを併せて掲載し、県内外へ積極的にPR

【成果 (R3年度)】

- ①②により、
- ・新規に登録された事業者：1件
 - ・契約オーナー数：延べ684組 (※)
 - ・体験者数：延べ249人 (※)
- ※本制度以外の自社オーナー制度による実績も含む



えひめの農林水産物
「ちょこっと体験！
まるごと収穫！」
オーナー制度

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 3 匠の技・郷土料理・文化を次世代に伝承します

○郷土料理の継承

【取組】

- ・地域の食文化の保存や伝承等を目的に、えひめ食文化普及講座を開催

成果】

- ・小学校、中学校、高等学校等 39回、延べ1422人に伝承

【関係事業】

- ・えひめ食農教育推進事業費：1,093千円



食文化普及講座

○久万高原における地域伝統食材の伝承を図る

【取組】

- ①雑穀の生産振興を支援するため、現地実証ほを設置(2か所)するとともに、ブランドづくり推進会議(3回)で検討
- ②雑穀を使用した郷土料理や生産風景等の動画を配信支援
- ③雑穀を使った新たな商品開発を支援

【成果】

- ①雑穀栽培面積：240a 出荷者：13人
雑穀の種類：3品目（地とうきび、たかきび、こきび）
- ②郷土料理の技の継承と消費拡大
継承料理3品目：はなこねり、たかきびの団子汁、雑穀餅
- ③たかきびを原料とする代替肉を開発
メニュー開発数：3事例

【関係事業】

- ・久万高原地域食材伝承事業費：1,485千円



現地展示ほの雑穀



郷土料理のふるまい

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 4 貴重な遺伝資源の収集・保存・供給・活用に努めます

○優良種苗の収集と保存、供給

【取組】

- ・「庄ダイコン」など地域伝承野菜の優良品種育成を行うとともに、農林水産研究所で育成した品種の原種生産を進め、許諾業者に配布

【成果】

- ・「愛媛緋」「庄ダイコン」の原種を生産
- ・いちご「紅い雫」「あまおとめ」水稲「ひめの凜」の優良種苗（原種苗）を生産し、許諾業者に配布
- ・さといも「愛媛農試V2号」やまのいも「やまじ王」そらまめ「愛のそら」の原種生産を行い、許諾業者に配布
- ・じねんじょの優良系統を保存 など

【関係事業】

【関係事業】

- ・農業試験研究費：28,165千円
（うち水稲野菜花き類の優良品種・種苗育成試験費：2,903千円）



いちご「紅い雫」